怒濤の連載中!

行くぞ荒波、一直線!

団塊の世代釣り師

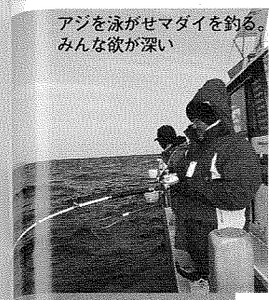
第58回

金沢漁港からアジとマダイ釣りに挑戦

沖釣りは非日常へのもっとも簡便なトリップ。糸の切れた凧のごとく、ユラユラと大空ならぬ海面を漂うロマンの旅だ。携帯だって電源切ればなしも同然。さあ、非日常へのトリップだ!

釣りライター 庄山晃

まずはアジそしてアジの泳がせ


アジを泳がせマダイを釣る。みんな欲が深い

仲間が集まると仕立船ならではの面白さを堪能できる。あれも釣り、これも釣る。あれをエサにして、大物を狙う。普段は叶わぬ夢の実現、早い話がある程度のワガママが許されるのも仕立て船ならばこそ。

金沢漁港の「木川丸」も釣り人のそんなワガママに、かなり真面目に取り組んでくれる、今どき奇特な船宿だ。

なにしろ集まったのが、自他ともに認める欲ボケのおバカさんたちだから致し方ない。おバカ具合の最たる点は、次のような携帯メールだ。

「釣りものは最初に泳がせ用のアジ。釣れたらすぐに移動でマダイに行きます」

事実、この仲間と同船での前回の釣りでは、ヒロちゃんがメタルジグで良型のマダイをヒットさせた実績がある。

メタルジグより生きたアジの方が美味と考えるのが人の常。でも、アジの泳がせでマダイを釣るなんてのは夢のまた夢として、人それぞれに企みは練っていた。

ある者はヒラメを狙い、あるものはイカを狙い、私なんざ泳がせ正攻法。泳がせ竿持参のハリス16号で、はぐれブリでも掛けてやろうの魂胆だ。

コマセマダイに変更して好調になった

釣行に先だって、若船長が「珍しいかと思いますよ」と言って、漁協の荷揚げ場に案内し、アナゴの出荷風景を見せてくれた。

水揚げされたばかりのアナゴを細いメソッコと、市場価値の高い中太アナゴに生かせたまま選別する作業だ。その装置が秀逸で、言うならばすべり台状のザルなのだ。

こうして中太アナゴは築地市場へと直行し、メソッコの方は地元消費となる。秋ころまでの極細は海に戻されたりもするそうだ。

みんなコマセマダイを始めた

前日は天候が今いちで「木川丸」と、もう一艘しか出漁しなかったらしいが、アナゴは結構ウジャウジャといて豊漁のように思われた。

みんな欲ボケ竿や太仕掛けを取り出した

そのアナゴの勢いを得て、アジもよく釣れた。金沢漁港を出てすぐ目の前が釣り場で、泳がせのエサには大きすぎる25㎝級がピョンピョン釣れた。

イシモチまじりのアジをそのまま釣り続けたら、6人とも干物屋を開店しなきゃならないくらいに釣れそうだ。しかし、メインは泳がせ釣りだった。

アジ釣りもそこそこに、向かった先は久里浜沖の90ｍダチ。ライトアジのレンタル道具一式を片付けて、各自が欲ボケ竿やら太仕掛けを取り出す。

船長の無線によると、どっかの船が4.5kgのマダイを釣ったそうで、そのサイズなら25㎝級のアジだって食うだろうと、期待ワクワクで背掛けのアジを送り込んだ。

ところが、背後でマダイ仕掛けを下ろしていたカガミさんが、ピタリ同級のアジを釣り上げる。私の泳がせたアジとオマツリかと思ったが、そうじゃなく、2匹目もアジ。

泳がせ釣りを強力に推薦したキクさんまでもが、マダイ仕掛けで同級のアジ。先ほどの釣り場より、距離では30倍、水深でも3倍以上はあるのに、そこでもアジはウジャウジャいるようだ。

季節外れとはいえ、腹ペコの大ビラメや、はぐれブリ、そして大ダイをもと、ロマンを膨らませたが、アジがこれだけ釣れるのじゃ、狙いの大物たちも飽食状態に違いない。

それでもしばらくは意地を張ったが、泳がせエサは元気なまま。私は虚しく大物竿をたたみ、おとなしくマダイ狙いへと転向した。

マダイが連発して笑顔も連発だ

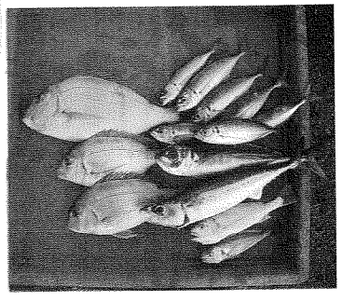
ひとり残されホシザメと遊ぶ

志を曲げたのは、カガミさんに始まり、ヒロちゃんもキクさんもきれいなマダイを釣ったからだ。「この日の2番目のターゲットですから」と皆さんはすっかりご機嫌さん。

しかし、マダイは私のごとき変節漢を寄せ付けず、代わりにホシザメの使者を寄こしては、船上の仲間と一緒にせら笑うのだった。

このホシザメ、じつは朝のアジ釣りの際にも1本釣ってしまっており、サメのなかでは美味な部類と捨てられずにいた。

暮れのテレビ番組で玄界灘のカズノコの味と紹介された魚でもある。現地ではこのホシザメを「ノウサバ」と呼び、干物にしてから再加工するそうで、出演者が絶賛しながら食べていた。



はぐれブリに振られた腹いせに、このサメを食ってやろうと思った。切り身をタレに漬け込んでから干物にしたら、紹介された味に近づくのではとも考えた。

実際に作ってもみたが、もとより玄界灘のカズノコの味を知らないから、まあちょっとした珍味になったのは確かで、魚は腕次第で化ける。

マダイ長者が2枚、3枚と追釣するなかで、3人だけがオデコ、つまりドンジリ競争。福島県の広野町では「ビリッカス争い」と言うそうだが、三重県の嬉野町では「ビリッケツ争い」と言ったもんだ。

その嬉野町も平成の大合併で松阪市に飲まれてしまい、おかげで私の田舎土産は松阪牛にしなければならぬハメになった。

口惜しいから本籍を移して今はハマっ子の振りをする。これなら土産もシュウマイですむ。サメ入りのシュウマイなんて、きっとうまいと思うが。

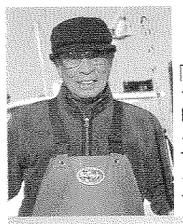
ちなみに広野町は近くに原発なんかがあって、合併なぞどこ吹く風にすんだらしい。

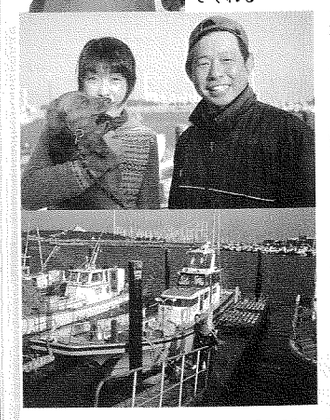
3人仲よく続いたドンジリ競争、最後に都会育ちのマコちゃんが裏切って、私と福島県出身のかの人だけになって納竿。

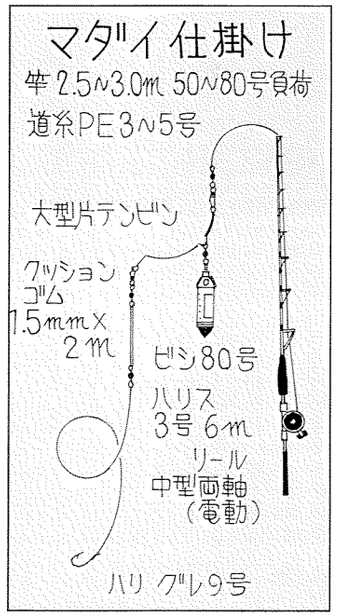
サメなんぞ釣って喜んだ私は、その写真を楽釣会なる釣りクラブのホームページに晒されることになろうが、物語にはすべからく、主人公の引き立て役が必要と思し召せ。

かくして、この日も非日常の旅を終え、各自また極めて真面目にお仕事に邁進しておるはず。

がしかし、ひと月もしないうちに欲ボケ心が騒ぎ出し、おバカ計画が頭をもたげ、お誘いメールが届くに違いない。


「木川丸」はファミリーでサービスしてくれる。仕立船なのでいろんなリクエストに応えてくれる





<船宿ガイド> 神奈川・金沢漁港「木川丸」☎045・784・6185
仕立専門＝平日は5人から、土日祝は10人から受け付け。料金、出船時間は電話確認。
交通＝横横道朝比奈ＩＣか、首都高湾岸線幸浦ＩＣから。電車はモノレール野島公園駅か、京急金沢八景駅下車

怒濤の連載中!

行くぞ荒波、一直線!

団塊の世代釣り師

沖釣りは非日常へのもっとも簡便なトリップ。糸の切れた凧のごとく、ユラユラと大空ならぬ海面を漂うロマンの旅だ。携帯だって電源切ればなしも同然。さあ、非日常へのトリップだ!

釣りライター 庄山晃

第58回

金沢漁港からアジとマダイ釣りに挑戦

「釣りものは最初に泳がせ用のアジ。釣れたらすぐに移動でマダイに行きます」

事実、この仲間と同船での前回の釣りでは、ヒロちゃんがメタルジグで良型のマダイをヒットさせた実績がある。

メタルジグより生きたアジの方が美味と考えるのが人の常。でも、アジの泳がせでマダイを釣るなんてのは夢のまた夢として、人それぞれに企みは練っていた。

ある者はヒラメを狙い、あるものはイカを狙い、私なんざ泳がせ正攻法。泳がせ竿持参のハリス16号で、はぐれブリでも掛けてやろうの魂胆だ。

釣行に先だって、若船長が「珍しいかと思いますよ」と言って、漁協の荷揚げ場に案内し、アナゴの出荷風景を見せてくれた。

水揚げされたばかりのアナゴを細いメソッコと、市場価値の高い中太アナゴに生かせたまま選別する作業だ。その装置が秀逸で、言うならばすべり台状のザルなのだ。

こうして中太アナゴは築地市場へと直行し、メソッコの方は地元消費となる。秋ころまでの極細は海に戻されたりもするそうだ。

前日は天候が今いちで「木川丸」と、もう一艘しか出漁しなかったらしいが、アナゴは結構ウジャウジャといて豊漁のように思われた。

みんなコマセマダイを始めた

コマセマダイに変更して好調になった

みんな欲ボケ竿や太仕掛けを取り出した

そのアナゴの勢いを得て、アジもよく釣れた。金沢漁港を出てすぐ目の前が釣り場で、泳がせのエサには大きすぎる25㎝級がピョンピョン釣れた。

イシモチまじりのアジをそのまま釣り続けたら、6人とも干物屋を開店しなきゃならないくらいに釣れそうだ。しかし、メインは泳がせ釣りだった。

アジ釣りもそこそこに、向かった先は久里浜沖の90ｍダチ。ライトアジのレンタル道具一式を片付けて、各自が欲ボケ竿やら太仕掛けを取り出す。

船長の無線によると、どっかの船が4.5kgのマダイを釣ったそうで、そのサイズなら25㎝級のアジだって食うだろうと、期待ワクワクで背掛けのアジを送り込んだ。

ところが、背後でマダイ仕掛けを下ろしていたカガミさんが、ピタリ同級のアジを釣り上げる。私の泳がせたアジとオマツリかと思ったが、そうじゃなく、2匹目もアジ。

泳がせ釣りを強力に推薦したキクさんまでもが、マダイ仕掛けで同級のアジ。先ほどの釣り場より、距離では30倍、水深でも3倍以上はあるのに、そこでもアジはウジャウジャいるようだ。

季節外れとはいえ、腹ペコの大ビラメや、はぐれブリ、そして大ダイをもと、ロマンを膨らませたが、アジがこれだけ釣れるのじゃ、狙いの大物たちも飽食状態に違いない。

それでもしばらくは意地を張ったが、泳がせエサは元気なまま。私は虚しく大物竿をたたみ、おとなしくマダイ狙いへと転向した。

ひとり残されホシザメと遊ぶ

志を曲げたのは、カガミさんに始まり、ヒロちゃんもキクさんもきれいなマダイを釣ったからだ。「この日の2番目のターゲットですから」と皆さんはすっかりご機嫌さん。

しかし、マダイは私のごとき変節漢を寄せ付けず、代わりにホシザメの使者を寄こしては、船上の仲間と一緒にせら笑うのだった。

このホシザメ、じつは朝のアジ釣りの際にも1本釣ってしまっており、サメのなかでは美味な部類と捨てられずにいた。

暮れのテレビ番組で玄界灘のカズノコの味と紹介された魚でもある。現地ではこのホシザメを「ノウサバ」と呼び、干物にしてから再加工するそうで、出演者が絶賛しながら食べていた。

はぐれブリに振られた腹いせに、このサメを食ってやろうと思った。切り身をタレに漬け込んでから干物にしたら、紹介された味に近づくのではとも考えた。

実際に作ってもみたが、もとより玄界灘のカズノコの味を知らないから、まあちょっとした珍味になったのは確かで、魚は腕次第で化ける。

マダイ長者が2枚、3枚と追釣するなかで、3人だけがオデコ、つまりドンジリ競争。福島県の広野町では「ビリッカス争い」と言うそうだが、三重県の嬉野町では「ビリッケツ争い」と言ったもんだ。

その嬉野町も平成の大合併で松阪市に飲まれてしまい、おかげで私の田舎土産は松阪牛にしなければならぬハメになった。

口惜しいから本籍を移して今はハマっ子の振りをする。これなら土産もシュウマイですむ。サメ入りのシュウマイなんて、きっとうまいと思うが。

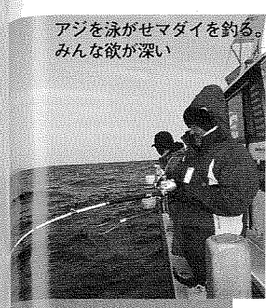
ちなみに広野町は近くに原発なんかがあって、合併なぞどこ吹く風にすんだらしい。

3人仲よく続いたドンジリ競争、最後に都会育ちのマコちゃんが裏切って、私と福島県出身のかの人だけになって納竿。

サメなんぞ釣って喜んだ私は、その写真を楽釣会なる釣りクラブのホームページに晒されることになろうが、物語にはすべからく、主人公の引き立て役が必要と思し召せ。

かくして、この日も非日常の旅を終え、各自また極めて真面目にお仕事に邁進しておるはず。

がしかし、ひと月もしないうちに欲ボケ心が騒ぎ出し、おバカ計画が頭をもたげ、お誘いメールが届くに違いない。

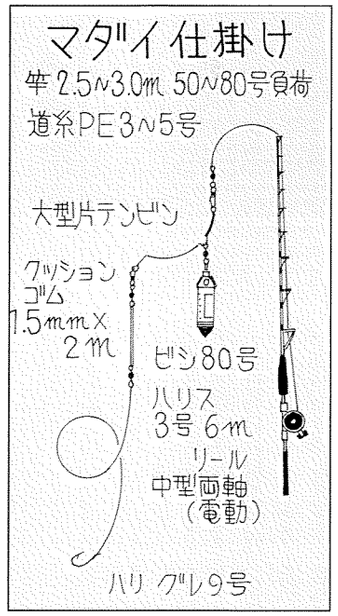

アジを泳がせマダイを釣る。みんな欲が深い

まずはアジそしてアジの泳がせ

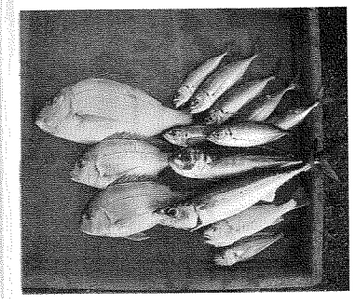
仲間が集まると仕立船ならではの面白さを堪能できる。あれも釣り、これも釣る。あれをエサにして、大物を狙う。普段は叶わぬ夢の実現、早い話がある程度のワガママが許されるのも仕立て船ならばこそ。

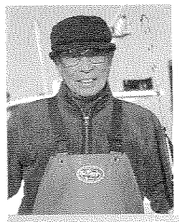
金沢漁港の「木川丸」も釣り人のそんなワガママに、かなり真面目に取り組んでくれる、今どき奇特な船宿だ。

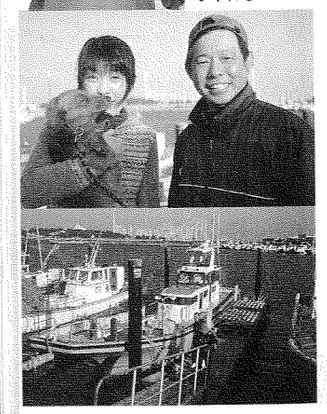
なにしろ集まったのが、自他ともに認める欲ボケのおバカさんたちだから致し方ない。おバカ具合の最たる点は、次のような携帯メールだ。



マダイが連発して笑顔も連発だ




「木川丸」はファミリーでサービスしてくれる。仕立船なのでいろんなリクエストに応えてくれる



<船宿ガイド> 神奈川・金沢漁港「木川丸」☎045・784・6185
仕立専門＝平日は5人から、土日祝は10人から受け付け。料金、出船時間は電話確認。
交通＝横横道朝比奈ＩＣか、首都高湾岸線幸浦ＩＣから。電車はモノレール野島公園駅か、京急金沢八景駅下車